

第18回

# 「未来を強くする 子育てプロジェクト」 のご紹介

「未来を強くする子育てプロジェクト」では、  
「子育て支援活動の表彰」と「女性研究者への支援」の2つの公募事業を柱として、  
すこやかな子育てと夢のある未来づくりを応援しています。



## 子育て支援活動の表彰

より良い子育て環境づくりに取り組む個人・団体を募集します。  
各地域の参考になる特徴的な子育て支援活動を社会に広く紹介し、他地域への普及を促すことで、子育て環境を整備し、子育て不安を払拭することを目的としています。



## 女性研究者への支援

育児のため研究の継続が困難となっている女性研究者および、育児を行いながら研究を続けている女性研究者が、研究環境や生活環境を維持・継続するための助成金を支給します。人文・社会科学分野における萌芽的な研究の発展に期待する助成です。

目次

- p.2 ..... 「未来を強くする子育てプロジェクト」のご紹介
- p.3 ..... ごあいさつ
- p.4 ..... 講評
- p.6 ..... 子育て支援活動の表彰
- p.15 ..... 女性研究者への支援





# ごあいさつ

## 高田 幸徳

住友生命保険相互会社  
取締役 代表執行役社長



住友生命では、創業100周年事業として、2007年より「未来を強くする子育てプロジェクト」に取り組んでおります。

今回で18回目を迎えた本プロジェクトは、「子育て支援活動の表彰」と「女性研究者への支援」の2つの公募事業を柱として、未来を担う子どもたち、そしてその環境を支える皆さまの活動を応援してまいりました。これまでに206組の子育て支援活動と181名の女性研究者の研究活動の支援を重ねております。

その中で、子育てや研究の現場で奮闘される皆さまの情熱と創意工夫に、私たちも大いに学び、そして、さまざまなチャレンジから、地域や社会に生まれる新たなつながりや広がりを大変うれしく感じております。

足元では、物価上昇による家計への影響がさらに増しており、本プロジェクトで支援する皆さまの困難も増してきています。しかし、そうした中でも、子育て支援や研究活動に取り組む皆さまは、柔軟な発想と熱意でこの状況を乗り越えようと日々努力されています。そうした姿勢に心を打たれる思いです。

本プロジェクトを通じて出会った多くの方々の志、あるいは行動が、次なる活力ある未来を築く力となり、社会全体で子どもたちを支える環境づくりがさらに先へ進むことを願っております。

住友生命は、これからもウェルビーイングな社会の実現を目指し、引き続き、将来世代を支える活動に取り組んでまいります。

## 選考結果

第18回「未来を強くする子育てプロジェクト」では、2024年7月から9月までの間、「子育て支援活動の表彰」「女性研究者への支援」の2部門の募集をいたしました。「子育て支援活動の表彰」には209組、「女性研究者への支援」には139名のご応募をいただきました。

選考委員による審査を経て各部門の受賞者が決定しました。

### 子育て支援活動の表彰

応募数 209 組 / 表彰数 12 組

- 内閣府特命担当大臣賞／スミセイ未来大賞の1組に授与
- 文部科学大臣賞／スミセイ未来大賞の1組に授与
- スミセイ未来大賞/2組
- スミセイ未来賞/10組

### 女性研究者への支援

応募数 139 名 / 表彰数 10 名

- スミセイ女性研究者奨励賞／10名

# 講 評



選考委員長

汐見 稔幸

東京大学名誉教授、  
白梅学園大学名誉学長

今

回、「子育て支援活動の表彰」部門の約1/3の応募者が、ここ数年間に活動を始めた団体です。子育ての現状を見て、放ってはおけないと感じた人たちが、日本各地で活発に動き出している様子がうかがえました。柔軟に地域の特性を捉え、ニーズを満たそうという活動が立ち上がる一方で、古くからの団体は立ち上げ時の活動から幅を広げ、地域での総合的な支援センターとして定着している様子も見られ、うれしく感じました。研究の世界では、大学で学問的に学んだことに加え、一旦社会に出て、子育てを経験すると、新たな視点から研究テーマが見つかることがあります。そのため、社会経験や子育てを経て研究を再開する人のほうが、研究に意義があり、熱意も感じられることが多いです。日本の研究界では、女性研究者はまだまだ数は少ないですが、こうした点で頼もしく、今後の成果に期待が持てる存在でもあります。



選考委員

大日向 雅美

恵泉女学園大学学長

本

プロジェクトは、女性が子育てと研究の両立に苦慮している状況をなんとか打開しなければいけない、というところから始まりました。当初は、生活と子育てを全て引き受けながら必死に研究を続けているような方もいましたが、今では、夫を支えるような研究者も出てきます。そして、困窮度が変わらないなかであっても、研究者自身が前向きに、研究はさらに充実したものへ変化してきました。また、仕事をしながらも研究を志すという、とても骨太の女性たちも出てきました。ジェンダーギャップ指数はまだまだ改善されていませんが、それを吹き飛ばすほどに、確かな手応えを生み出してくださっています。50年ほど前に同じような細い道を歩いてきた立場の女性として、とてもうれしく感じます。



選考委員

奥山 千鶴子

認定NPO法人  
びーのびーの理事長



回、活動歴が1～3年という団体も多くあり、新たなニーズに対応して活動を始めた団体が増えてきている点を評価すると同時に、まだまだ行政の支援が不足している部分があると改めて感じました。選考にあたっては、自分たち独自の活動に加えて、まちづくりや地域全体としての生活支援など、広い視野で活動する団体や、そのために他の主体と手を組んで活動している団体を評価させていただきました。また、子どもや子育て当事者が支援を受けるだけでなく、主体となって参画するような活動が見られましたが、これらも非常に新しい視点だと感じています。子育てを取り巻く課題は大きく、また多様になっていますが、だからこそ民間の支援活動の重要性が高まっていることを感じる選考となりました。



選考委員

米田 佐知子

子どもの未来サポートオフィス  
代表



こ数年多かった子ども食堂からの応募ですが、今年はそれが次のステージに進んだ印象を持ちました。子ども食堂自体が社会的インフラとして、そこで出会った子どもたちのニーズをくみ取りながら、複合的な支援の場に変化してきています。以前は子どもの貧困支援の中心だった学習支援活動も、子ども食堂と組み合わせた“居場所”の一つのスタイルとして定着してきました。また、本年度は例年よりも医療的ケア児の支援が多いように感じました。以前は、病院内での実践が多かったのですが、今回、学びや体験の機会づくりや、家族との日常生活をどうサポートするのかといった、QOLを保障する視点の活動が出てきました。この領域の支援が今後さらに広がっていくことを期待しています。



選考委員

角 英幸

住友生命保険相互会社  
取締役 代表執行役副社長



来を強くする子育てプロジェクト」も18回目を迎え、多くの子育て支援団体や女性研究者の皆さまが、それぞれの活動を通じて社会に貢献されている姿を拝見することができました。「子育て支援活動の表彰」においては、地域や社会の課題に真摯に向き合い、柔軟で創意工夫に富んだ支援を展開し、地域住民や他の団体との連携を深めながら活動を続けておられる姿が印象的でした。また、「女性研究者への支援」においても、育児と研究を両立させつつ、社会に必要とされる新たな知見を切り開いている皆さまの姿に深く感動しました。社会的な支援がまだ十分とはいえないなかで、直面する課題に果敢に取り組むその姿勢は、同じ立場の女性研究者に希望や勇気を与えており、本プロジェクトに関わる一員として大変喜ばしく思っております。本プロジェクトでの支援が次のステップへとつながり、子育て支援団体や女性研究者の皆さまがより一層ご活躍できることを心より願っております。

# 受賞団体のご紹介

p.8

スマセイ未来大賞・  
内閣府特命担当大臣賞



大阪府  
一般社団法人  
タウンスペースWAKWAK

p.9

スマセイ未来大賞・  
文部科学大臣賞



熊本県  
NPO法人  
外国から来た子ども支援ネットくまもと

p.10

スマセイ未来賞



東京都  
足立子ども組織を育てる会

p.10

スマセイ未来賞



鹿児島県  
特定非営利活動法人  
奄美青少年支援センター「ゆずり葉の郷」

p.11

スマセイ未来賞



大阪府  
NPO法人  
いいねきーたん実行委員会

p.11

スマセイ未来賞



大阪府  
特定非営利活動法人  
IKUNO・多文化ふらっと



p.12

### スミセイ未来賞



北海道

認定NPO法人  
カルチャーナイト北海道

p.12

### スミセイ未来賞



兵庫県

公益財団法人  
チャイルド・ケモ・サポート基金

p.13

### スミセイ未来賞



岡山県

認定NPO法人  
ポケットサポート

p.13

### スミセイ未来賞



神奈川県

認定特定非営利活動法人  
森ノオト

p.14

### スミセイ未来賞



岐阜県

一般社団法人MORIWARA  
自然育児 森のわらべ多治見園

p.14

### スミセイ未来賞



青森県

レスタ

## 子育て支援活動の表彰

# スミセイ未来大賞・内閣府特命担当大臣賞

大阪府

高槻市

## 一般社団法人 タウンスペースWAKWAK

「ひとりぼっちのいないまちをつくる」というビジョンのもと、  
多くの機関と協働し、子どもたちの居場所を運営

### 地域の課題

大阪府は生活保護率が高い状況です。高槻市も例外ではなく、活動地域には生活困窮家庭、外国ルーツの家庭、ひとり親家庭、被差別家庭など、支援の必要な方が多く見られます。特に、子どもたちには虐待やネグレクトなど、そのしわ寄せがいきやすく、負の連鎖を断ち切るために、すぐにも救いの手を差し伸べる必要があります。

### コロナ禍をきっかけに独自の拠点を開設

活動開始当初は、こうした子どもたちに対して、公共の施設を借用して、学習支援活動や子ども食堂を開催していました。しかし、コロナ禍により子どもたちの居場所にもなっていた公共施設が使用停止に。子どもたちへの支援が途切れ、孤立化が懸念されたため、独自の居場所をつくろうと、地域の方から一戸建ての住宅を無償で借り受け、「コミュニティスペースNikoNiko」を開設しました。

### 多くの機関と協力したセーフティネットの構築

近年、行政の支援の手からこぼれ落ちてしまっている子どもたちへのアウトリーチ活動にも力を入れています。また、地域の支援対象は、子どもたちだけにとどまらず、高齢者世帯や、障がい者世帯など、数多くあります。地域の担い手不足による自治会機能の低下も明らかになってきました。こうした社会課題に対して、私たちは地縁型の組織として、官民の各セクターを横断的に結びつけ、総合的に支援する「ひとりぼっちのいないまち」づくりに取り組んでいきます。



代表者 岡本 茂

活動開始年月 2014年4月

スタッフ数 14名

### 受賞の言葉

このたびは栄えある賞をありがとうございます。さまざまな要因で社会的不利を抱える子どもたちの経済的格差・体験格差に加え、コロナ禍を経て「孤独・孤立」が顕在化しています。今回の受賞を機に「誰一人取り残さない社会的包摂のまちづくり」に向けたフロントランナーとなるよう引き続き尽力していきます。

## 子育て支援活動の表彰

# スミセイ未来大賞・文部科学大臣賞

熊本県

合志市

## NPO法人 外国から来た子ども支援ネットくまもと

自宅を開放し、20年にわたって

熊本県内の外国ルーツの子どもたちを迎え入れ、日本語支援を実施

### 熊本県における外国ルーツの子どもたちの状況

熊本県の外国ルーツの子どもたちは、かつては中国からの移住者が多かったのですが、最近ではニューカマーが増え、国籍も多様になってきました。こうしたなかで、学校には日本語を十分に理解できない子どもが増えています。一方で、熊本県は外国ルーツの子ども数が多いとは言えず、さらに各地に散在しているため、支援の手が行き届きにくい状況です。

### 自宅を開放して日本語支援を開始

20年ほど前、当会代表の竹村が勤務していた日本語学校には、県内各地から外国ルーツの子どもたちに日本語を教えてほしいという依頼が数多く寄せられていました。しかし、熊本県は広く、全てに対応することはできないため、日本語学校では要請を受けられません。竹村は、支援者のいない子どもたちの将来を懸念し、日本語の習得を支援するため自宅を開放し、週末や夏休みの期間に子どもたちの受入れを開始しました。

### 現在の支援内容

現在は、自宅での受入れ以外にも、日本語学習支援活動として県内16市町村へ日本語指導員を派遣しています。指導員は30名ほど在籍しており、全員が教育関係の有資格者です。また、毎年、県内の外国ルーツの子どもたちとその保護者を集めて高校進学説明会を開催しています。その他、宿泊を含む交流会をはじめ、各種イベントを定期的に開催し、県内に散在している子どもたちの交流機会を創出しています。



代表者 竹村 朋子

活動開始年月 2003年4月  
(2009年～民間団体として、  
2014年～NPO法人として)

スタッフ数 73名(うち日本語指導員33名)

### 受賞の言葉

このたびは名誉ある賞をいただき大変光栄です。また、私たちの活動を評価していただけたことに心より感謝申し上げます。この受賞を通して、私たちはこれからも熊本県に在住する外国ルーツの子どもたちのために活動を継続しながら、行政や子どもたちを支える他団体とともに支援を絶やさないよう努力していきたいと思っております。

# 子育て支援活動の表彰 スミセイ未来賞

東京都

足立区

## 足立子ども組織を育てる会

地域にひとりぼっちの子どもをなくそう!  
合言葉に、遊び集団作りのために  
「遊び会」「サマーキャンプ」等を開催

**高**度成長期から50年にわたり、子どもたちに異年齢の仲間遊びの楽しさを広げる活動を実施。毎月「公園での遊び会」や、毎年5月には足立区内の子育て団体と協力し、「足立子どもまつり」を実施。また、25年前には、自然の中での体験の必要性を感じて自然豊かな埼玉県小鹿野町より木造校舎を借り受け、「りょうかみ山の家」を設立。「山の家」では、「サマーキャンプ」や「リーダー学校」を運営しています。

鹿児島県

奄美市

## 特定非営利活動法人 奄美青少年支援センター 「ゆずり葉の郷」

「すべての子どもにチャンスを」  
子どもたちを信じて受け止め、再出発を支援する

**か**つて奄美大島には、経済的な困窮から親に放置され、非行に走ってしまう子どもたちが多くいました。家庭や社会から疎外されてきた子どもたちに対して、私たちは「許し、認め、褒め、励まし、感謝する」の姿勢で長年寄り添い、社会復帰を応援してきました。現在では、非行こそ減りましたが、まだまだ多くの問題を抱える子どもたちがいます。彼らを温かく迎え入れ、寄り添いながら、再出発を支援していきます。



代表者 森 進

活動開始年月 1971年 スタッフ数 15名

**受賞の言葉** 私たちの活動が50年間継続できたことが今回の受賞につながりました。活動を継続運営して、今も応援してくれているOB会員に感謝です。また、参加者である小学生から成長し、高校生から指導員となった青年たちも、2代目、3代目の指導員が生まれています。今後も、幅広い世代の会員たちが協力し、活動を広げていければと思います。



代表者 喜入 博一

活動開始年月 2001年8月 スタッフ数 18名

**受賞の言葉** このたびは輝かしい賞を頂戴し、大変光栄に存じます。これまで数多くの非行問題や不登校・虐待事案等の支援に奔走し、全国の行き場のない子どもたちやご家族の最後の砦として、微力ながらも邁進してまいりました。「心の拠り所」として、一人でも多くの子どもの輝かしい未来が築けるよう、スタッフ一同尽力してまいります。

大阪府

岸和田市

## NPO法人 いいねきーたん実行委員会

多くの子どもたちの成長を支える、  
地域に開かれた子ども食堂

**調**理や飲食業の経験のないなか、地域の子どものために仲間と始めた子ども食堂です。開始当初から多くの子どもたちが来てくれ、大変にぎわっています。コロナ禍を経て利用が増え、多いときは300名が利用するまでになりました。季節のイベントにも力を入れ、クリスマスイベントには、特に多くの子どもたちが集まります。今後も、地域に開かれた子ども食堂として、多くの子どもたちの成長を支えていきます。

大阪府

大阪市

## 特定非営利活動法人 IKUNO・多文化ふらっと

地域資源を活かしソーシャルワークを展開。  
多文化のまちに住む子どもたちを支える活動

**私**たちの活動するエリアは、コリアタウンとして知られていますが、近年ニューカマーが急増。少子化、多国籍化が進行するこのまちは、「日本の未来の縮図」とも言えます。このまちで、廃校となった校舎を大阪市から借り受け、多文化共生、地域コミュニティ維持の機能を持つ施設、「いくのパーク」として整備しました。この「いくのパーク」の収益により、困難な状況にある子どもたちの日本語学習や進学、就学を支援しています。



代表者 尾崎 敏子

活動開始年月 2017年12月 スタッフ数 39名

**受賞の言葉** このたびは名誉ある賞をいただき、大変光栄です。子どもたちを取り巻く社会的課題が多く、2017年に子ども食堂を立ち上げました。出口の見えない問題に直面し、紆余曲折しながらも多くの方々にご支援をいただき、走り続けてきました。今回の受賞により、これまでの努力が認められたという実感を心得、次なる挑戦へと進んでまいります。



代表者 森本 宮仁子

活動開始年月 2019年6月 スタッフ数 14名

**受賞の言葉** 多文化共生が大きな社会課題のひとつになるなか、こうした栄えある賞を受賞することができ、大変うれしく思います。私たちの活動をともに担ってくださるボランティア・関係者の皆さまの努力の賜物です。大阪・生野で誰もが暮らしやすい多文化共生のまちづくりに向けて、今後も目線と重心を低くしながら力を尽くしていきます。

# 子育て支援活動の表彰 スミセイ未来賞

北海道

札幌市

## 認定NPO法人 カルチャーナイト北海道

札幌の夏の夜の風物詩、  
地域文化を次世代に伝える「まちの文化祭」

7月の夜に一日だけ、札幌市内の産学官民さまざまな施設を特別に夜間開放する「カルチャーナイト」を開催。歴史や文化、産業、芸術など施設ごとの特色あるプログラムを提供し、「まちの文化祭」として定着しています。

普段は入る機会のない施設や店舗に出かけて、そこで働く方々と触れあうことができ、自分たちのまちの魅力や価値を再認識できる機会です。多くの親子連れが夜の街中を歩く姿は、札幌の夏の風物詩になっています。



代表者 山本 強

活動開始年月 2003年3月 スタッフ数 9名

**受賞の言葉** このたびは素晴らしい賞を賜り、心より感謝を申し上げます。毎年、約1,400人の関係者や100人を超えるボランティアの皆さんと一緒にカルチャーナイトを創り、22年間、地道に継続してきました。特別感があってワクワクする文化体験が、子どもたちの健全育成と地域文化の伝承・発展につながるよう今後も貢献してまいります。

兵庫県

神戸市

## 公益財団法人 チャイルド・ケモ・サポート基金

「いってらっしゃい」「おかえりなさい」を  
あたりまえに。長期療養中の子どもとその家族が  
一緒に生活できる場所

子どもの入院や療養が長引くと、生活の中心は病院となってしまう、家族との時間が限られてしまいます。家族バラバラの生活は患児、きょうだい、親にとっても心身の負担が大きいものです。

私たちの施設では、生活のための機能を充実させ、長期療養中の子どもたちとそのご家族が、家庭のような雰囲気でも生活できる場所を提供。専門職による相談体制も整え、入院中や退院後の生活を総合的にサポートしています。



代表者 田村 亜紀子

活動開始年月 2005年12月 スタッフ数 15名

**受賞の言葉** 子どもが治療中でも家族と一緒に過ごしたかったという家族の想いから、この活動は始まりました。現在、近隣の病院でお子さんは治療を受けながら当施設できょうだいやご両親が生活されています。当施設を必要とされる方が増え、こうした賞をいただけたこと、そしてこれまでご支援をいただいた皆さまに心より感謝申し上げます。

岡山県

岡山市

## 認定NPO法人 ポケットサポート

「ひとりじゃないよ」。  
慢性疾病のある子どもたちを、  
多職種連携で多面的に支援

**長** 期療養中の子どもたちは、学習や体験の機会が不足し、将来への挑戦を諦めてしまうことがあります。私たちは、こうした子どもたちの機会損失を補うため、入院中から退院後も学習・復学支援、交流イベント開催、ピアサポート相談事業などを多職種と連携しながら多面的に展開しています。医療や教育の関係者はもちろん、同じように病氣療養経験のあるスタッフが一人ひとりの子どもたちに寄り添うことを大切に活動しています。

神奈川県

横浜市

## 認定特定非営利活動法人 森ノオト

ウェブメディアの運営を通じて、  
母親の社会参加を促進。  
子どもたちのメディアリテラシー教育にも注力

**子** 育て当事者として、環境の持続可能性に疑問を感じ、草の根レベルから行動変容を促そうと、生活密着型のエコを発信するウェブサイト「森ノオト」を開設しました。記事の当事者性と生活感を大事にするため、主に子育て中の母親たちをライターとして起用。地域の子育て支援団体とのネットワークづくりにも寄与しています。親子を対象としたメディアリテラシー教育では、専門家との連携や、教育委員会からの後援を受けて活動しています。



代表者 三好 祐也

活動開始年月 2015年11月 スタッフ数 10名

**受賞の言葉** NPO法人設立10周年の節目に受賞できたことは、闘病中の子どもたちやご家族にも皆さまの温かい想いと元気を届けることにもつながり、大変うれしく思います。私たちの活動には医療関係者だけでなく、学校の先生や教育委員会、行政との連携が必須です。今後も多職種連携でつながり、支援の輪を広げていきたいと思っています。



代表者 北原 まどか

活動開始年月 2009年11月

スタッフ数 20名  
(雇用スタッフ9名、業務委託スタッフ11名)

**受賞の言葉** 「あなたは一人じゃない、この地域には温かい手を差し伸べてくれる人がたくさんいるよ」。こんなメッセージを胸に、ローカルメディアとして15年にわたり、地域の子育て資源と当事者をつなぐ活動をしてきました。情報の担い手を育成し、よい地域情報で社会をよくしていく。そのような循環をこれからもつづけていきます。

# 子育て支援活動の表彰 スミセイ未来賞

岐阜県

多治見市

## 一般社団法人 MORIWARA 自然育児 森のわらべ多治見園

母親たちが支え合い、積極的に運営に参画。  
親子で育ちあう  
「自分で感じ、考え、自分を生きる」森での活動

**森**のようちえんをはじめとして、森での体験を中心に子どもたちの成長を見守り、支える活動です。「自分で感じ、考え、自分を生きる」をモットーに、自主性を育てています。また、子育ての孤独を解消し、楽しさを共有するためには、親同士のコミュニティ作りが大切。そのため、母親たちに運営にも参加してもらいます。困難な場面もありますが、失敗を繰り返しながら、仲間たちと共に育ちあう温かい場となっています。



代表者 浅井 智子

活動開始年月 2009年6月 スタッフ数 23名

**受賞の言葉** 森のわらべをよくご理解くださっている会員さんからの勧めで応募。私たちの取組みを評価していただき、受賞は大きな励みとなりました。母たちに母であることの喜びを取り戻したい、との思いで活動を重ねて16年。これからも「世界平和の鍵は母と子の幸せ」と掲げながら、森と人がつながりあって豊かな暮らしを紡いでいく在り方を届けていきます。

青森県

青森市

## レスタ

大学生、高校生が中心となって運営する、  
小学生、中学生の異年齢交流の場

**昭**和の時代、近所には子どもたちが集まる空き地があり、年齢を超えた交流がありました。そこで子どもたちは年上が良い、年下の面倒を見ながら工夫して遊び、互いに成長していました。私たちはこの空き地の機能の再生を目指しています。学習支援や交流イベントなど、さまざまな事業の企画立案から運営までを大学生や高校生が中心となり、小中学生と共に世代を超えた交流を楽しんでいます。



代表者 高木 萌生

活動開始年月 2012年5月 スタッフ数 22名

**受賞の言葉** このたびは輝かしい賞をいただき、誠に光栄に存じます。この栄誉は現メンバーの力だけではなく、レスタを築き上げ、つないできたOBや顧問、支えてくださった多くの方々のおかげだと思っています。これからも賞に恥じぬよう、子どもたちと一緒に成長しながら活動を続けてまいります。

女性研究者への支援

## スミセイ女性研究者奨励賞



### 猪岡 愛佳

東京大学大学院  
総合文化研究科 国際社会科学専攻



### エリス 直美

カリフォルニア大学ロサンゼルス校  
政治学部博士課程後期

研究テーマ

**貧困層の包摂へ取り組む  
フェアトレードの課題と考察**  
— ボリビアの先住民女性による  
フェアトレードを事例に —

**【内容】** 格差や貧困問題が深刻化するなかで、社会的弱者を支える経済構築が急務である。貧困層の約75%が先住民のボリビアで、経済的困窮に苦しむ先住民女性が取り組むフェアトレード組織の連携等の組織強化に焦点を当て、貧困課題解決の方法を検討する。経済的課題、必要な施策を考察し、連帯経済の実践例を基に得た着想から一般化を試みることで、持続可能な経済を目指す連帯経済理論の構築、貧困削減に向けた国際的連携へ貢献したい。

#### 受賞の言葉

このたび、栄誉ある賞をいただき心より感謝申し上げます。支えてくださった方々のおかげです。研究の軸となるフィールド調査と子育ての両立に悩むなかで、今回の受賞は大きな希望を与えてくれるものでした。人間の尊厳と命の共生を基盤とした社会の実現に向け、また、次世代女性研究者のためにも全力を尽くしてまいります。

研究テーマ

**反戦平和主義の理論化：  
敗北の視点の可能性**

**【内容】** 本研究の関心は、敗戦の経験が平和主義の発展に及ぼす影響にある。敗戦国では戦勝国と違い、「正義のための戦争」という論理が崩れるが、これを「勝者の裁き」として悲観するのではなく、むしろ戦争の絶対的な非正義を擁護するための理論的土台として活かせないか。日本国憲法の正統性をめぐる言説を読み解くことで、日本の「戦後」を問い直すとともに、歴史の「敗者」の視点から欧米の民主主義論の普遍性を吟味することを目指す。

#### 受賞の言葉

研究と育児の両方に大きな喜びを見いだしながらも、時間面、金銭面での両立の難しさを実感していました。育児を優先して、所属大学から離れた日本で博士論文に取り組んでいることにも不安がありました。受賞の連絡を受けて、「力の限りやろう」と心が定まりました。同じく研究者である夫とともに、深く感謝申し上げます。

女性研究者への支援

## スミセイ女性研究者奨励賞



尾角 光美

バース大学 社会・政策科学部 博士課程  
一般社団法人リヴオン 代表理事



笠原 真理子

東京大学  
ヒューマニティーズセンター 助教

研究テーマ

成人形成期(18~25歳)に  
親を亡くすことによる経済的影響

**【内容】** 成人形成期である18歳から25歳は、実家を出たり、学業を修めたり、社会に出て経済的な自立を果たすなど、人生において極めて重要な時期であるが、この時期の若者の親との死別の影響はあまり知られていない。本研究は、成人形成期に親を亡くした若者の死別経験を調査するもので、若者の抱える課題や、経済的サポート、行政的サポート等求められる支援の可能性を探求し、将来の政策や支援に向けた提案を行うことを目的とする。

受賞の言葉

英国の大学院の博士課程に在籍しながらコロナ禍に本帰国し、出産。法人の経営(仕事)、研究、育児と、ジャグリングのような毎日を送ってきました。研究を断念した方が良いのかと悩むこともありましたが、このたびの受賞により、自分を信じる気持ちと研究を続けるための支えを戴いたので、必ず博士論文を書き上げたいと思います。

研究テーマ

オペラ漫画を通してみる  
メディアミックスの効果と  
その歴史的意義の体系的考察

**【内容】** 本研究では、オペラ研究の多様化を受けて、少女マンガの枠組みで発展してきた「オペラ漫画」の様相について体系的に考察する。少女マンガは、当初はステレオタイプ的なテーマや表現方法が散見されたが、革新的な女性作家たちの存在によって多くの女性を勇気づけ、新しい生き方のシンボルやモデルとなってきた。オペラ漫画が発展した背景にある女性を取り巻く日本の社会的状況の変遷を明らかにし、メディア芸術の分野に一石を投じたい。

受賞の言葉

このたびは栄えある賞をいただき厚くお礼申し上げます。待望の出産でありながら、幾度も体調を崩して仕事・育児・家事の兼ね合いに苦しみ、いっそ研究をやめた方が楽なのではないかと悩んだこともありましたが、この受賞を機に、仕事とプライベート双方をより充実させるように努め、研究活動に一層精進してまいります。



## コマストリ キアラ

オックスフォード大学  
歴史学研究科 博士課程



## 杉野 好美

京大大学院  
アジア・アフリカ地域研究研究科 5年一貫制博士課程

研究テーマ

**戦後日本における「民話」の役割と  
山代巴の思想：  
集団形成と対話の場の理論**

**【内容】**本研究では、戦後初期に広島県の農村で活動していた作家・山代巴が、「民話」という概念を通じて、最も脆弱で声を持たないコミュニティの人々に、自律性と発言の機会をどのように提供したのかを探究する。日本の「戦後」を問い直す研究において、農村を文化や思想の先駆的な生産地として捉える試みは少なく、とりわけ女性の役割に注目したものは限られている。本研究は、こうした欠如を補いながら、現代社会における普遍的な民主主義の実践として「民話」の可能性を追究することを目的とする。

### 受賞の言葉

このたびは、スミセイ女性研究者奨励賞に選出していただき、心より感謝申し上げます。小さな子どもの子育てをしながら研究を続けるなか、十分な時間が取れずに、研究者としての自信を失いそうになることもありました。今回のような支援は、私のような立場にある研究者にとって大変心強く、意義深いものだと感じています。

研究テーマ

**中部ジャワにおける  
女性の健康課題と対処  
— 行商ジャムウ利用の事例 —**

**【内容】**ジャムウは、ジャワ人を中心に親しまれるインドネシアの伝統薬である。女性に人気の行商人によるジャムウは、母子保健を含めた女性のさまざまなライフイベントをサポートしている。地域の慣習や宗教の制約から、女性特有の問題について適切な医療や衛生が受けられないことも女性用ジャムウが発展した背景にある。本研究では、思春期から授乳期の女性の健康課題やその対処法、ジャムウの安全かつ適切な利用について明らかにする。

### 受賞の言葉

母親として毎日の子育てから多くのことを学んでいますが、研究との両立に難しさを感じることもあります。しかし、子育ての経験は、インドネシアのさまざまな世代の女性の健康について研究するにあたり、糧になっていると感じています。このたび、子育てと研究の両立に後押しをくださいましたことに大変感謝いたします。

女性研究者への支援

## スミセイ女性研究者奨励賞



### 中越 亜理紗

東京大学  
人文社会系研究科 博士課程後期



### 原木 万紀子

タリン大学  
バルティックフィルム メディア アンド アートスクール  
ポストドクトラルフェロー

研究テーマ

#### 19世紀英国の女性作家・ 旅行家が描いた日本と中国

**【内容】** 19世紀の英文学における日本と中国のイメージの形成を小説や、旅行記での表象を通じて分析する。特に、イザベラ・バードやアリシア・リトルなどの女性作家が日本や中国の人々との交流を描いた作品に着目し、国家間の敵対的関係や上下関係という一般的な見取り図を、個人レベルでどのように再考できるか検討する。「文化の異なる者たちがどう共に生きるか」という問題に対峙し、文学という枠に留まらない研究を目指す。

#### 受賞の言葉

このたびはこのような栄誉ある賞に選んでいただき、心より感謝しております。私の場合、妊娠・出産・育児は心身ともにハードだったことに加えてコロナ禍と重なり、研究の進捗について苦悩した時期も長くありました。まだまだ育児は困難続きですが、今回の受賞を励みに、これからも研究者として邁進していけたらと思います。

研究テーマ

#### 医療情報における 多様な人体表象がもたらす 情報伝達効果の量的・質的検討

**【内容】** 解剖図等、医療情報における人体表象は筋肉質の白人男性が“標準”として用いられてきた。標準を用いて学習した医師は標準以外の患者に対し誤診の可能性が高く、限定的表象は医療の不平等の一因として指摘される。また、表現されないことで標準以外の人々のエンパワメント、ウェルビーイングにも影響することが考えられる。本研究では女性に焦点を当て、表象の影響の一端を質的に探ることで医療情報における人体表象の多様性を目指す。

#### 受賞の言葉

このたびは受賞者として選定していただき、心より感謝申し上げます。突然決まった海外研究の機会。新しい研究手法と慣れない海外での育児は、心細くもあり、一方で子どもの笑顔に助けられることも多い日々です。貴重な機会をより充実したものにすするため、今回の受賞を励みに、より一層研究活動に邁進できるよう精進してまいります。



## 山本(小林) 美季子

東京学芸大学大学院  
連合学校教育学研究科芸術系教育講座  
小田原短期大学 助教



## 渡邊 宏美

近畿大学  
経営学部 会計学科 専任講師

研究テーマ

### 佐渡における伝統芸能の 伝承と教育に関する研究

**【内容】**日本は世界に比類のなく豊かな芸能文化を形成した国である。津々浦々の多彩な伝統芸能は、人から人へと受け継がれ、今もなお、音や芸からその歴史や美意識を辿りうる。なかでも多く芸能を残す佐渡は、戦時下には学校を芸能の場とした記録があり、今日まで学校教育に伝統芸能を意欲的に取り入れてきた。本研究では、音楽科を対象とした佐渡の例から、教育と伝承とがいかに関連、折衝、補完し合ったかを歴史史料及び実地調査から明らかにする。

**受賞の言葉** 選考委員の皆さまをはじめ、これまでご指導くださった全ての先生方、日頃関わってくださる職員の皆さまに心より感謝申し上げます。心の支えには、家族、指導教官、所属機関の応援があり、子どもの主治医の温かい支援が拠り所となりました。叡智の尊さに学び、互助や思いやりを知り、妥協なく真理を追究する研究者でありたいと思います。

研究テーマ

### 株式報酬に関する会計基準と 税法のあり方に関する研究

**【内容】**株式報酬は、労働サービスの対価を現金ではなく、株式または株式を購入する権利(ストックオプション)で支払うものをいう。スタートアップ育成や人材流出防止等の文脈において、税制優遇措置等により株式報酬の利用が促進されているが、一方で問題もある。本研究は、会計基準と税法が、企業の報酬形態、特に株式報酬に与える影響を踏まえて、歴史研究及び海外比較により、今後の制度設計における提言を行うものである。

**受賞の言葉** このたびは栄えある賞に選んでいただき、心より感謝申し上げます。3人の幼い子どもを育てつつ、今も研究を続けていられるのは恩師、職場の先生方、家族のおかげです。今回の受賞も、研究を続けていんだよと背中を押されたような感じで、大きな励みになっております。社会に貢献できるよう、より一層研究に精進いたします。